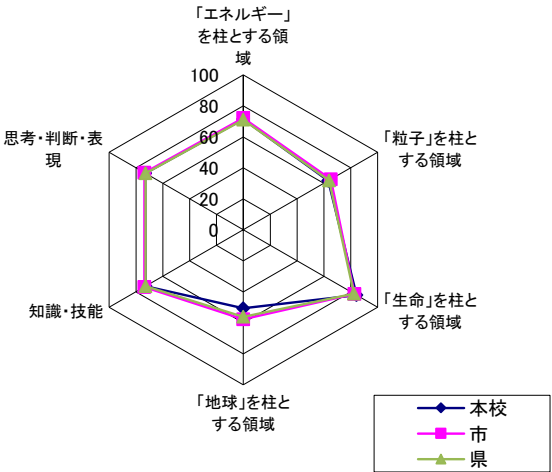


宇都宮市立富士見小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	71.4	72.1	71.0
	「粒子」を柱とする領域	63.2	65.2	63.9
	「生命」を柱とする領域	84.3	82.8	82.4
	「地球」を柱とする領域	50.6	57.7	56.2
観点	知識・技能	72.8	73.8	72.8
	思考・判断・表現	73.1	73.7	72.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	○本領域の平均正答率は71.4%で、県の正答率を0.4ポイント上回った。 ○「実験の結果をもとに日光を集めたところの大きさを選ぶ」の平均正答率は60.5%で、県の正答率を8.3ポイント上回った。 ○「魚を磁石で持ち上げるために魚につけるものを選ぶ」の平均正答率は、94.7%で、県の正答率を4.2ポイント上回った。 ●「手でにぎるとトライアングルの音が止まる理由を考える」の平均正答率は79.0%で、県の正答率を4.8ポイント下回った。 ●「風が強くなるとものを動かすはたらきが大きくなることを答える」の平均正答率は55.3%で、県の正答率を3.7ポイント下回った。	・理科に関する基本的な知識は身に付いていると思われるので、今後も継続して基礎・基本を押さえながらさらに発展的な問題についても指導していく。 ・県の正答率を下回った問題は、文章に言葉を当てはめ事象や原因を説明する短文式の問題が多い。実験結果をまとめる際、児童の言葉を用いつつ、普段はあまり使用しない理科用語を確実におさえてまとめ、一般化できるよう指導する。
「粒子」を柱とする領域	●本領域の平均正答率は63.2%で、県の正答率を0.7ポイント下回った。 ○「(物と重さについて)実験の結果について正しいものを選ぶ」の平均正答率は92.1%で、県の正答率を5.4ポイント上回った。 ●「体積が同じでも種類によって重さが違うことを答える」の平均正答率は34.2%で、県の正答率を6.9ポイント下回った。	・短文式の正答率が低いことから、普段から実験結果を思考する時間を十分に与え、実験結果を自分の言葉でまとめる作業を取り入れる。 ・教師は、児童の言葉を生かしつつ、学習のキーワードを意識させながらまとめることで、実験結果を言葉・文章に適切に表現できるよう指導する。
「生命」を柱とする領域	○本領域の平均正答率は84.3%で、県の正答率を1.9ポイント上回った。 ○「記録カードを比べてわかることを選ぶ」の平均正答率は86.0%で、県の平均正答率を9.7ポイント上回っている。 ●「はじめに出てきた葉の名称を答える」の平均正答率は78.1%で、県の平均正答率を5.8ポイント下回っている。 ●「モンシロチョウのあしがついている部分を選ぶ」では、平均正答率は85.1%で、県の平均正答率を3.0ポイント下回っている。	・半数以上の設問で県の平均正答率を上回っており、基本的な学習内容は概ね身に付いている。虫眼鏡の正しい使い方については正答率が低いので、植物や生き物の観察を通して、正しい虫眼鏡の使い方を身に付けさせる。 ・植物の観察を継続的に行い、植物の体のつくりの名称を正しく覚えられるようにする。 ・昆虫の体のつくりでは、昆虫を飼育し観察したり、昆虫の模型や標本を使ったりすることで、昆虫の体のつくりについて理解できるようにする。また、「昆虫」という名称を使用して考察し、昆虫か昆虫でないかの仲間分けを適切に言葉で説明できるように指導していく。
「地球」を柱とする領域	●本領域の平均正答率は50.6%で、県の正答率を5.6ポイント下回った。 ●「方位磁針の正しい使い方を選ぶ」の平均正答率は34.2%と低く、県の正答率を9.5ポイント下回っている。 ●「太陽が動く方位を選ぶ」の平均正答率は49.1%で、県の平均正答率を6.1ポイント下回っている。	・全ての設問で県の平均正答率を下回っているため、基本的な知識を身に付けられるよう指導していく。 ・方位磁針の正しい使い方を身に付けると共に、かげの動きを推測できるよう、記録をもとに考えられるように指導していく。